

令和3年度

病害虫発生予察情報

第 15 号

特殊報第1号

北海道病害虫防除所 令和3年8月11日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel: 0123(89)2080・Fax: 0123(89)2082

スイカ炭腐病が道内で新発生

発生確認作物：すいか

病害虫名：*Macrophomina phaseolina* (Tassi) Goid.

1. 発生の確認経過

- (1) 本年6月上旬、上川地方の複数ほ場において、収穫間際のすいかの株が急激に枯れ上がる症状が発見された（写真1）。維管束の褐変やヤニの噴出などはみられなかったことから、つる割病やつる枯病などは疑われなかったが、抜き取ると根が褐変腐敗し、一部に黒点がみられた（写真2）
- (2) 上川農業試験場において、発生株の根から病原菌の分離を行った結果、白色の菌糸を生じ、のち培地表面に微小菌核を形成するため、菌そうが黒色となる糸状菌が分離された。
- (3) 分離菌の形態的特徴および塩基配列解析の結果、本病原菌はスイカ炭腐病菌と同定された。

2. 本病の特徴

- (1) 本病は糸状菌の一種マクロフォミナ・ファゼオリナによって引き起こされる土壌伝染性病害で、感染した作物は、収穫間際に地上部の急激なしおれ、枯死症状を発症し、果実収穫が著しく減少する。
- (2) 本病原菌は多犯性で、ウリ科（メロン、きゅうり、すいか、ゆうがお、マクワウリ、かぼちゃ）、マメ科（だいず、あずき、ささげ、いんげんまめ、アルファルファ、クローバ類、クロタラリア）、キク科（ヤーコン、キク）、ヒルガオ科（さつまいも）の他約300種に寄生性があるとされている。
- (3) 本病は1997年に長野県のすいかで発生が確認されている。同じ病原菌による他作物での炭腐病も含めると全国的に発生が確認されている。また、ウリ科作物ではホモプシス根腐病との混発が問題となっている。

3. 防除対策

- (1) スイカ炭腐病に対する登録農薬は無い。また、宿主範囲が広いので安易な転作も危険である。
- (2) 連作を避ける。
- (3) 発生ほ場では宿主作物の栽培を避ける。
- (4) 被害株や収穫後の残渣は根ごと抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。
- (5) 機械類や長靴等による土壌の移動に注意し、作業終了後にはこれらの洗浄を行う。



写真1 発生した株



写真2 根に形成された微小菌核